木材は音更川が運ぶ … 木材の流送

十勝分監（十勝監獄）をつくるための材料は、音更川をさかのぼった糠平（上士幌町）あたりの山で木材を切って、手に入れました。

この木材は、音更川の流れに乗せて、今の木野市街（音更町）あたりまで流されました（流送という →p180）。

引き上げられた木材は、少し加工されてから十勝川を舟でわたり、「木のレール」を走るトロッコで、今の緑ヶ丘（帯広市）まで運ばれました。

分監（監獄）ができたあとには、帯広周辺のさまざまな建物をつくるのための材料が、同じように運ばれました。

大正時代には、製紙用の木材を切り出したい業者のもとで、受刑者たちは糠平（上士幌町）に通じる道をつけます。非常に危険な工事でした。

開通後、十勝監獄は「音更山道碑」という石碑を建てました。国道273号ぞいに復元され、今も見ることができます。

音更山道碑。上士幌町字黒石平。屏風岩の近く。

音更川の流れと、十勝監獄で木を切っていたところ（■）。
（地図の川や市町村は今のもの）

夏の音更川、糠平ダム下流（上士幌町糠平）。

秋の音更川、萩ヶ岡橋上流・セタ川合流点付近（上士幌町萩ヶ岡）。

音更川、十勝新橋上流（音更町木野・宝来）。今の木野東小あたりで木材を引きあげた。

赤い着物の受刑者たち … 受刑者が建てた小学校

十勝分監（十勝監獄）の受刑者たちは、明治29年 (1897) には帯広尋常小学校（帯広小学校）を建てています。帯広だけではありません。

平成７年（1995）に閉校した青山小学校（池田町）の始まりは、明治35年(1902)にできた下利別簡易教育所でした。明治39年 (1906) に、下利別尋常小学校になります。周囲が発展するにしたがって生徒の数が増え、校舎がせまくなったため、新しい校舎が建てられることになりました。

当時、子どもだった人の思い出です。

「私が六歳の時、赤い着物を着た人が大勢ならんで私の家の方に来たので、私は驚いて家へ飛びこんで祖母にしがみついたことをおぼえている。

祖母の話によると帯広の十勝監獄の囚人（受刑者）が新しい学校を建てに来ているのだと言った。夏の暑い日だったので川に汗を流しにつれてこられたのだ。（中略）

その当時としては実にりっぱな学校だったにちがいない。

教室は二つ、職員室と昇降口をかねて物置もあった」（藤山諭さんの話。『開校六十周年記念誌』1961 より。「池田町開拓夜話」）

こうして明治41年 (1908) に新しい下利別尋常小学校ができました。

十勝の開拓、そして発展には、開拓者たちの努力のほかに、重罪人としてつかまり、刑を受けていた監獄受刑者たちの力も大きかったのです。

うじかんとかちぶんかん)」。集治館とは、おもに重罪人や激しく政府に反対した人を集めた刑務所（けいむしょ）。きびしく働かされ、命を失う受刑者も多かった。

※４　帯広百年記念館（おびひろひゃくねんきねんかん）：帯広市緑ヶ丘２　電話：0155 - 24 - 5352